

はしか（麻しん）の流行について

東京都など関東地方を中心に、はしか（麻しん）が流行しており、大学での集団発生が報告されています。はしか（麻しん）は感染力が強いため、十分な注意が必要です。以下の症状が見られる場合は、必ず医療機関に電話連絡をした上で早期に受診するとともに、学生係へも連絡してください。

<はしか（麻しん）の症状>

- 感染後1～2週間で風邪（37.5℃以上の発熱、くしゃみ、鼻水など）に似た症状が出る
- 口の中（頬の内側など）に白い斑点が出る
- 熱は一度下がりかけるが再び高熱が出て、体に赤い発疹が出る（顔面から全身に広がる）

<対策>

- はしか（麻しん）の抗体がないと考えられる学生は予防接種を受けることをお勧めします。
- 上記のような症状が出た場合は必ず医療機関に電話連絡をし、受診の方法を確認してから受診すること。
- 学校保健法では解熱後3日間は出席停止です。症状にもよるので、登校可能か否かは医師の指示に従うこと。
- はしか（麻しん）にかかった学生（かかったと疑われる学生も含む）は学生係へ連絡すること。

<はしか（麻しん）の抗体がないと考えられるケース>

- はしか（麻しん）の予防接種を受けたことがない（母子手帳等で確認してください）
- はしか（麻しん）にかかったことがない
- はしか（麻しん）の予防接種を受けてから10年以上が経過している

平成19年6月4日

学生係